

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念に基づき、地域に根ざしたグループホームとしての役割を考え、事業所独自の理念を作っている。	○	理念に基づきサービスを提供する。
2 ○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体としての理念は、すべての職員が理解し、日々のサービスに取り込んでいる。	○	独自の理念の実践については、まだ不十分であり、今後は常に意識できるように働きかける。
3 ○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が、地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来客者、家族等に対して、目のつく所に掲示している。また、地域の方に対して、理解してもらえようように努力している。	○	広報紙等を活用し、家族・地域の方に理念を理解してもらうように取り組む。
2. 地域との支えあい			
4 ○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の方と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	夏祭り開催時には、地域の方に参加を呼びかけており、地域のゴミ拾い・敬老会への参加、また利用者の散歩の時には挨拶を交わすなど、地域の方との交流は積極的に図っている。しかし、地域の方が、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いは少ない。	○	地域の方との関係が良好となるように、広報紙によるPR、運営推進会議に出席されている地域代表の方からの情報をいただき、地域活動への参加等、より一層の交流が持てるように取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等を通して、評価の狙いや活用方法を職員全体に周知する。評価結果については、職員会議等で話し合い、改善策等を考え、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	評価結果について、今後も、職員全員で話し合い、実現に向け努力していく。
6	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。グループホームの活動内容及びサービスの内容を報告及び話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○	家族の出席者が少ない為、広報紙等で今後も、呼びかけていく。
7	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会をつくり、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報紙、情報提供、外部評価結果等を市の担当課に報告し、グループホームの取り組みを理解してもらえるように働きかけている。また、利用者との関係等、判断に困ったときは助言を求める電話をかけたり、直接、市役所へ出向いている。	○	現場の実状などを共有できる様に今後も、連携していきたい。
8	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修会に参加し、権利擁護、成年後見制度について学んでいるものの、全職員が理解するまでには至っていない。	○	研修会参加後、職員全員が周知出来るよう、研修会参加者による研修内容発表会、及び勉強会を開催していきたい。
9	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、全職員が虐待防止関連法について理解を深めている。また見過ごされることがないように職員同士で注意を払い、業務にあたっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	利用者や家族が安心していただけるように説明し、不安な点、疑問な点についても細かに対応していく。
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	利用者の意見、要望を聞く機会を設け、運営に反映させるように取り組んでいく。
12	○ 家族等への報告 事業所での、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	家族が安心して頂ける様に、こまめに連絡を取り合う機会を増やしていく。
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	家族の立場に立ち、不満・苦情は出しにくい状況を理解し、言い易い雰囲気を作る為、これからも、積極的にコミュニケーションをとっていきたい。
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	これからも職員が、意見を出しやすい雰囲気作りをしていく。
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	○	利用者や家族の状況の変化・要望に、今後も柔軟な対応が出来るよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限であり、その際、利用者に十分説明し、理解を求めている。	○	異動、新規で配属された方に対して、グループホームでの対人援助技術と認知症について説明していく。
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて、育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、外部・内部研修会参加を勧めており、可能な限り参加できているが、年間研修計画を作成するまで至っていない。	○	研修で得た知識を、全職員に伝達できるような勉強会を行っていく。
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場は、研修以外にはほとんど無い状況であるが、研修に参加した職員から、同業者の情報を聞く機会がある。	○	他同業者の見学及び情報交換の場を増やし、情報交換の場やネットワーク作りを構築していきたい。
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について、気を配り、気分転換できる休憩室も確保している。常に職員の表情やしぐさには気配りをし、職員同士の人間関係を把握するように努めている。	○	仕事面や人間関係での悩みや、ストレスについて、気軽に話し合える機会や環境作りに努めていきたい。
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会参加や資格取得に対して積極的であり、資格を活かせる労働環境の配慮がされている。また、職員一人ひとりが向上心を持ち、努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者、家族の思いを受け止め、入居時には安心して生活ができるように十分に説明し、不安の軽減に努めている。		
22	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めていることを、出来るだけ早く見極め、理解し、その時の状況を考え、他事業所とも相談し本人に説明して、十分満足していただけるサービスの提供に心掛けている。	○	本人の状態と家族の状況を考え、その時に、何が今、必要かを考え、対応していきたい。
23	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や病院等を訪問し、本人と面会しグループホームの状況等を利用者の視点に立って説明し、柔軟に支援している。また本人・家族にグループホームを見学してもらう等、安心して生活が始められるように配慮している。	○	利用者の家族等と相談しながら、施設見学や共用型認知症通所介護を利用し、グループホームの雰囲気に馴染めるような対応を取っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員と一緒に日常の作業を行い、特に調理については、利用者から教えてもらう時間を多く作り、お互いに協力しながら行い、より良い関係を築くように努力している。	○	利用者は、人生の先輩であるという尊い思いを持ち続けながら一緒に協力し、和やかに生活が出来るような環境作りや声掛けをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対して、利用者の近況を報告する他、通院時の対応、行事参加への協力をお願いし、利用者に対して一緒に支えている関係を築いている。	○	利用者に対して、家族と協力しながら利用者を支えていけるよう努めていきたい。
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・入居者の関係を理解し、入居後の状況について、お手紙や電話連絡等をし、近況を理解してもらい、家族との関係が途切れないようにしている。また、外泊・外出等の支援等を進め、より良い関係の継続に努めている。	○	入居者の近況を定期的に報告していく他、行事参加を促し、良好な関係の継続が出来るように努めている。
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者については、以前、住んでいた地域、施設の方と交流できる様進めている。	○	家族・友人との関係を知る必要があるため、情報収集に心掛け、利用者の生活歴等を大切にしながら、地域等、馴染みの人や場所との関係継続に努めていきたい。
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を、より良いものとするために、時には職員が話題を提供する等の工夫をしている。	○	個人個人の性格等を把握し、利用者同士が支え合えるような、支援が出来るように、セッティングや声掛けをしていきたい。
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了し、移動先が同一法人内であれば、利用者への面会や利用者同士の交流が見られている。	○	家族との関係は、契約終了後、途切れてしまうことが多い為、グループホーム利用中から、信頼関係を築き、困った時に頼れる存在になっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、一人ひとりの希望や意向について把握するように努めている。自分の希望等をうまく伝えられない方に対しては、その方の表情から想像し、家族からも、情報を提供していただき、本人本位に支援できるように努めている。	○	一人ひとりの希望や意向について、常に本人の立場に立って検討し、明確に把握できない場合にあっては、曖昧なままにしたり、決めつけてしまわないように注意を払っていきたい。
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関係者から情報収集、入居時も家族、入居者から情報収集に努めている。	○	入居者との会話の中には、これまでの生活について、たくさんの情報があり、今後も見過ごさず情報を共有していく。
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者本位に考え、その利用者の生活リズム、その時の現状を職員全員で話し合い、考え、把握に努めている。	○	利用者の「できない」という情報にとらわれずに、出来ること、やれること等、プラスの面等をしっかりと捉え、その人の全体像を把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成には利用者・家族の意向を聞き、ケース会議を行い、意向が反映されている介護計画を作成している。	○	家族、本人の要望が少ないため、家族・本人が意見を出しやすい工夫が必要である。
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、3ヶ月毎に見直す他、期間前でも状態に変化のあった場合は速やかに見直しを行う他、家族、本人の了解を得ている。	○	利用者・家族のニーズの把握に努め、介護計画の見直しを考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録を用意し、介護計画に沿って記入する他、その日の状況、状態変化等については、申し送り等で職員全員が把握できるようにしている。	○	入居者に対して、気付いた部分を細かく記録していくことが必要である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの、居室を利用した短期入所の利用や共用型の通所介護の実施を行っている。また、家族・本人の状況に応じた通院対応や面会時間の延長等、柔軟に行っている。	○	短期入所や共用型の通所介護の機能があることを、地域やケアマネージャー等に認識してもらえるようにPRしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議により、地区の民生委員との意見交換他、夏祭りのボランティア、避難訓練時に地域の方の協力を得ている。	○	地域資源の活用を考えると、こちらからも地域に協力できるよう事業所のPR等をし、地域との協働を図っていく。
38	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じ、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、ケアマネージャーと利用者の状況報告を兼ねて、情報交換をしている。	○	家族の希望や意向を聞き、出来る範囲で、他のサービスを利用していきたい。
39	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的、かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの関わりを持つことにより、関係が強化されている。また、権利擁護や成年後見人制度についての相談・助言をいただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が、これまで受診されている、馴染みのあるかかりつけの病院で受診出来るように支援し、受診には、出来る限り家族に対応してもらっているが、家族が同行できない場合は職員が対応し、家族に受診結果を随時報告している。		
41 ○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	一部の方に対しては、専門医の治療を受けている。すべてのかかりつけ医が認知症に関して理解しているかどうかはわからない。	○	専門医以外のかかりつけ医に対して、情報を提供し、適切な助言、指示して下さるよう努めていきたい。
42 ○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制により、日頃の健康管理や医療面での相談、助言をもらっている他、夜間の緊急時に対応可能となっている。		
43 ○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、本人の情報提供を行い、心身の負担の軽減を行うようにしている。また、家族や病院との連絡を密にし、本人の状況を確認しながら、早期退院に向けた支援に心掛けている。職員が時間を見つけ見舞いに行っている。		
44 ○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期ケアは実施していないが、その時の対応については、家族に説明し、意志疎通が図られている。	○	重度化・終末期におけるケアについては、事業所・家族・本人の状況等が変わる度に、話し合いを持ち、方針の確認に努めていきたい。
45 ○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期になった場合、利用者に対してのケアについては、家族と主治医と話し合い、利用者・家族に不安を与えないようにしている。	○	不安を解消できるように、十分な話し合いを継続していく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際、他事業所に情報提供を行い、家族・本人が納得できるように努めている。	○	併設施設であれば、利用者・職員で、面会に行くなどし、精神的な不安を取り除くように努力している。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の助言を否定することなく、個々の誇りやプライバシーに配慮したケアを提供し、声掛けについても十分に注意をしている。また、個人情報保護法についても理解しており、取り扱いについては家族・本人に了承を得て対応をしている。	○	十分に注意した言葉掛けを、今後も実施していく。
48	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が、わかりやすいような声掛けや選択肢を提案し、選んでもらうなど利用者が自己決定できるように支援している。		
49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせるのではなく、利用者のペースに対して柔軟に対応できるように努力している。また利用者の希望がかなうように努力、工夫している。	○	個々のペースにあわせ、柔軟に対応できるように、今後も努力、工夫していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性の方に対しては、化粧・おしゃれを楽しんでいただけに取組んでいる。また男性の方に対しても、毎日の髭剃り等の支援を行っている。他に理美容についても本人の希望を聞き行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。また嗜好調査を実施し、一人ひとりの好みを把握し、要望に沿った食事を提供している。		
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的に自由であり、本人の健康状態に配慮した上で、嗜好品を楽しめるように支援している。		
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄リズムを理解し、トイレ誘導をし、失敗を減らすよう努めている。夜間はリハビリパンツ、日中は綿パンツにパットで対応している方もいる。		
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回ではあるが、利用者の希望を聞き、日中は、いつでも入浴できるようにしている他、時間帯も本人の希望を取り入れている。また、入浴の拒否が見られる場合でも、個人個人に合った声掛けや誘導方法を職員が理解している。	○	利用者の立場に立ち、職員側の都合とならないように、常に注意している。
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れ、生活リズムを整えるよう努めている。夜間については安眠できるように足浴等で支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに役割を持たせ、出来た事に感謝し自信に繋げている他、好きなこと、出来ることを把握し、気分転換出来るように支援している。	○	マンネリ化しないように、常に新しい取り組みを考え実施していく他、拒否する方、無気力な方に対してどのようなアプローチしていくか検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理しているが、一人ひとりの希望に応じ少額ではあるが、本人に所持させている。また事業所で預かっている額も教えている他、買い物時はなるべく自分で支払いできるようにしている。		
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援は、希望通りできていない状況であるが、日曜日には、利用者が戸外ではないが、他事業所へ出かける支援を行っている。	○	希望を出来るだけ叶えられる様な、計画を立てて行きたい。
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の対応ではなく、行事として行きたい場所を決めている他、その際には、家族の参加を呼びかけている。	○	利用者が、普段なかなか行けない場所だけではなく、行きたい場所を聞き、出来る限り希望が叶うように支援していく。
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全利用者とはいかないが、定期的に電話・手紙のやり取りがある。	○	利用者の希望される場合だけであり、職員サイドからの支援も必要と思われるため、積極的に、やりとり出来るように支援して行きたい。
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人・知人・家族が気軽に訪問出来る様に、雰囲気作りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアル等が整備されており、拘束はしないという姿勢で、日々ケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外はカギをかけていないが、徘徊等による無断外出をされる方に対しては、職員の見守り強化を行う取り組みをしている。また玄関には、扉開放時に音が鳴るブザーを設置している。		
64	○利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して、利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的巡回や声掛けを行い、利用者の所在や状態を把握し、安全に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、手の届かない所に置く他、夜間は、保管場所の施錠等を行っている。また、必要に応じて本人に管理してもらう取り組みを行っている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書の作成・回覧の他、利用者の状態観察に目を向け、起こるであろうと思われるものに対して、職員間で口頭ではあるが情報交換し、防止に努めている。	○	情報交換だけでなく、記録に残す方法を考えていく。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が、事故発生時の対応については出来ている他、ほとんどの職員が救急法の講習を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行い、地域の方にも協力を得られる体制作りをしている。また食料品・飲料品等用意している。	○	グループホームでも、数日分の食料品等を用意するように考えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に対しては対応策を説明している他、職員も利用者のリスクを把握している。	○	家族に対しての対応策をきちんと説明し、その都度速やかに連絡することも必要かと思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・言動を観察し、変化又は異変があれば、速やかに情報を共有し、看護師・医師・家族へ報告し、対応している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、職員全員が理解しており、変更のあった場合は看護師・全職員に申し送っている他、その他の状態観察強化に努めている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄の確認と、飲食物の工夫や運動を促しているが、どうしても排泄が無い場合は下剤を服用させている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施を促し行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは、管理栄養士に作成してもらい、栄養バランスが摂れた食事を提供しているおり、水分量も記録している。また、利用者に合わせ粥食・特別食・補助食等で支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを整備しており、随時見直しを行っている他、法人全体での感染症対策委員会を設置している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品は、熱湯消毒や漂白し、調理場の掃除も定期的に行っている。また、食材についても搬入時の確認を行い、保管についても十分に注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の構造上、玄関が分かりにくいのが、看板を立てる等の工夫や玄関には季節に合った装飾をする等し、家庭的な雰囲気を出す工夫をしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファやテーブル・畳があり、その他の備品も家庭的なものとなっている。又、テレビの音量も適切で日差しに関してはブラインド等で調整し居心地良く過ごせる様に工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が、自分の居場所が決まっており、その場所で他利用者・職員と会話されたり、新聞を購読したりと自分のペースで思い思いに過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が、使用されていた家具等が持ち込まれており、利用者が居心地のよい居室となるように、工夫しているが、入居者のレベルにより十分でない居室もなかにはある。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については、定期的に行っている他、温度調節もエアコン等を使用し、状況に合わせてるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりや椅子を設置する等、工夫しているものの、共有スペースから死角となる場所もあり、定期的に巡回している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状態を把握しており、必要に応じて、利用者が分かるように目印をつける等、混乱や失敗を防ぐ為の工夫をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や廊下にベンチがあり、利用者同士が座って会話ができる他、植物等を置き、観賞出来るようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ほぼ全ての利用者の ☐ 利用者の2/3くらい ☐ 利用者の1/3くらい ☐ ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ 毎日ある ☐ 数日に1回程度ある ☐ たまにある ☐ ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ほぼ全ての家族と ☐ 家族の2/3くらいと ☐ 家族の1/3くらいと ☐ ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ほぼ毎日のように ☐ 数日に1回程度 ☐ たまに ☐ ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が ○職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が ○利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ○家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・法人全体の理念のもと、利用者に対して人格を尊重し、日々のケアに望んでいる。
- ・利用者に対しては、本人が出来る事に対して役割を持たせ、自信の回復に努め、喜びを共感している。
- ・認知症進行防止のため、学習療法を取り入れ、進行防止に努めている。
- ・行事・レクリエーション等では利用者の意見を取り入れ、計画を進めている。